

(7)「未来創造会議」とそれに向けた取組について

<仮 説>

課題研究を、グループ主体にグローバルな視点から探究活動として深化させ、解決策等を提言することにより、問題を分析する論理的な思考力、企画力、対話力、表現力、プレゼンテーション能力が育成される。また、地域とのつながりを体感することにより、将来地域のリーダーとなって活躍しようとする意欲を持った人材育成を図ることができる。大学院に在籍する留学生を招いて意見交換を行う「未来創造会議」を生徒達が主体となって企画・運営・発表すること、また会議を通して新しい提言を発表することで、リーダーとしての自覚を養うことができ、社会とのつながりを持つ中でグローバルリーダーとしての資質を育成することができる。

<目 的>

生徒自身が会議の企画・運営を行い、課題研究に発表と提案を実施する。発表と提案にあたっては、奈良先端科学技術大学院大学の留学生とも意見交換を行い、文化や言語が異なる人々との協働を通して発表と提案を行い、企画力や創造力、コミュニケーション力、協働力、プレゼンテーション能力、使命感などグローバルリーダーとして必要な資質を育成する。

<内 容>

①今年度の未来創造会議の発表内容について

本年度はアドバンストコースのメンバーが5つのグループに分かれて課題研究を進めた。(発表内容について下記の当日の日程表のとおり)

発表1～3のグループは英語による発表、発表4、5は日本語による発表で、英語の発表についてはSGH事業をおこなっていた時と同様に、事前に奈良先端科学技術大学院大学の留学生との意見交換を行って、発表に向けての留意点やアドバイスをいただくこととなった。

【当日の日程】

時 間	内 容	方 法
9:10～9:15	オープニング（開会行事、日程説明等）	
9:15～10:40	第1部 課題研究発表 [英語] 発表1 「Satoyama-to solve environmental problems」 発表2 「The way of promoting tourism in Nara」 発表3 「Our New Education Project in Nara」	各発表・質疑・ 指導助言
10:50～11:30	第2部 クラスセッション（グループディスカッション）	各教室にて
11:50～12:30	第3部 課題研究発表 [日本語] 発表4 「文学の郷土性」 発表5 「食品ロスを減らそう」	各発表・質疑・ 指導助言
12:30～12:40	フィナーレ（閉会行事）	学校長挨拶

今年度の発表はSGH事業における課題研究の集大成という位置づけが強いが、発表内容について

てみると発表2～4の3つについては今回の事業内容にも関わる内容なので、この3つ、特に発表3の事前の取組を中心に今回は報告をしたい。

②会議に向けての課題研究の取組について

(1) 発表2 「The way of promoting tourism in Nara」

【内容紹介】

奈良に観光客が少ないのはなぜなのか。京都などと比較をしてみると、その原因の一つにリピーターの少なさがありました。他県の取り組みも参考にしながら、奈良に外国人を中心にリピーターの観光客を増やすための施策についての提案をおこないます。

前年のアドバンストコースで実施した「UNESCO 世界遺産教室」の時に、講演いただいた久保美智代先生に講演後特別にインタビューをおこない、世界遺産の保護や、持続可能な観光のあり方について教えていただいた。また国連世界観光機関（UNWTO）駐日事務所の方々の講演も参考にしながら、観光地に住む人々の生活を第一に考えた観光のあり方について学んだ。それらを踏まえて、外国からの観光客が多く訪れる和歌山県田辺市が熊野古道でおこなっている取組を参考にし、奈良に外国人観光客のリピーターを増やすために、外国人が魅力と感じている日本ならではの県内の祭りを紹介・発信していくことを提案した。この班は、最終的な提案を考え出すにあたって、奈良先端科学技術大学院大学の留学生との意見交換が大きなヒントとなったようだ。

(2) 発表4 「文学の郷土性」

【内容紹介】

イギリスの文学作品が好きで、いろんなジャンルの作品を読んだけど、内容や描写に理解できない部分がありました。それで、現地に行けば何かわかるのではないかと、思って夏休みにロンドンに留学をしたものよくわかりませんでした。それでは逆に自分が住んでいる奈良に関する作品ならば内容や描写についてよく理解できるのではないかと考え、奈良に関連のある作家や文学作品について考察した結果について発表します。

文学という見地から、地元奈良を見つめ直そうという研究で、県立奈良図書館の蔵書をベースにして、作家の出身地はどこの都道府県が多いか、どの時代にどの都道府県を題材にした作品が書かれているかという客観的データをもとに、具体的な作品の描写も示しなら発表者の調査結果と郷土の文学とは何か、という提案をおこなった。

(3) 発表3 「Our New Education Project in Nara」

【内容紹介】

みなさんは奈良のことどれだけ知っていますか。知っているつもりでも、まだまだ知らない奈良の魅力はたくさんあります。私たちはもっと奈良を知ってほしいという思いからこの研究を始めました。では、その魅力をどのように知ってもらうのか。そこで私たちは、好奇心旺盛な小学生が地元について深く学べば、地元や奈良への愛着が湧くのではないかと考えました。私たちの考えた提案とそのプロジェクトを紹介します。

高校生である自分たちが、地域の歴史等について事前調査をおこない、それをもとにプレゼンやクイズを作成して地域の小学校で先生方の協力もいただいて発表する取組を実施した。その概要と、取組後の小学生へのアンケート結果も踏まえてわかってきた成果と課題について発表をおこなった。この班の取組については、その内容について次項で詳しく記す。

③発表3の班の研究取組について～今井小学校との交流授業

今井小学校は寺内町として有名な今井を校区に持つ、明治7(1873)年創立の橿原市立の小学校で、本校から約1.5kmの距離に位置する。校区は今井の町だけでなく、隣接する町も含んでいるので児童は必ずしも寺内町今井についてよく知っているわけではない。ただ、歴史ある町今井についての学習は学校として積極的に行っておられ、平成23(2011)年からは「ユネスコスクール」に認定されている。具体的には、3年生から6年生にかけて町についての学習を行い、6年生では今井の観光や町づくりについてディスカッションも行っている。

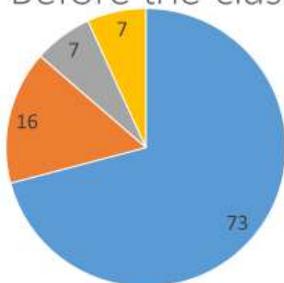
5月1日、本校の生徒が小学校を訪れ、事前打ち合わせ。その結果、1学期中に本校生徒が今井町を学習するプレゼンを作成して、3,4年生の前で発表することが決まり、その前と後に対象児童にアンケートを行うこととした。その後、本校生徒は今井町のフィールドワークを実施し、児童の事前アンケートの結果を参考にして、児童が興味を持っていることを中心にプレゼンやクイズ、プリントを作成した。7月16日午後、3,4年の児童を集めた合同授業で交流をおこなった。



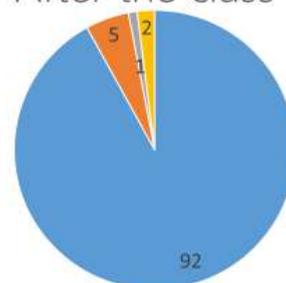
45分の授業はあっという間に終了し、4クラスの合同であったが小学校の先生方のご協力もあって混乱もなく、児童たちにとっても有意義で楽しい授業となったようだ。該当学年の先生方からも、「秋以降の地元学習の良い動機付けになった。」とか「高校生に地元のことを教わるといのは、子どもたちにとっていい刺激になった。今後も地元の学習に限らず、例えば来年度から本格実施される英語やプログラミングといった学習でも連携していただけたらありがたい。」という意見をいただいた。本校生にとっても地元の小学生とともに学ぶことを前提に地元を学ぶということは、ただ単に地元を学ぶのとは違った学び方ができたし、特に将来教育系の大学への進学を考えている生徒にとっては、小学生に興味を持ってもらう教材作成や教えた内容の伝え方の難しさ、小学校教育の実態などを知ることができ、とても参考になった。彼らが「未来創造会議」でも紹介していたが、今回の交流授業を受けた児童への事後アンケートをみると、児童たちの地元への興味、関心は増加している。

Do you like studying about Imai town?

Before the class



After the class



■ Very much ■ May be ■ Not really ■ Not at all

(右のスライド参照。なお、「未来創造会議」においてこの班は英語で発表を行ったので、スライドは英語表記となっている。なお、次の資料は、交流授業当日に児童に配布したプリント。)

いまいちょう し こうこうせい であ 今井町について知ろう！～うねび 高校生との出会い～

ねん くみ ぼん

☆駒つなぎ

駒つなぎは、馬や牛をつなげるためのものです。町のシンボルとして、とても大切にされています。町のいろんなところで見つけられます。



☆ジグザグの道

敵が攻めてきたとき、まえに進みにくくなりました。じぶんの姿をかかくこともできます。



☆環濠(みんながバタキンを放ったところだよ！)

昔、織田信長にもらったときに町を守るのに役立ちました。



☆今井町にある文化財

今井町には、国の重要文化財がなんと9つもあります。



いまにしけいじやうたく
今西家住宅



きやうこめたにけいじやうたく
旧米谷家住宅



とよたけいじやうたく
豊田家住宅



かわいけいじやうたく
河合家住宅

左の写真は、今井町にある重要文化財のうちの4つを写したものです。

今西家住宅→町の西側にあります。

今井町を治めていました。

旧米谷家住宅→裏庭には土蔵(倉庫のこと)があります。

CMの撮影にも使われました。

豊田家住宅→昔は木材の商売をしていました。

二階には「木」の印がついています。

河合家住宅→二階建てで丸い窓がとくちょうです。

昔から酒屋さんをしています。

④「未来創造会議」の当日発表について

7月27日(土)、2年生の生徒全員と1, 3年生の希望者、そして3名の指導助言者と運営指導委員、県内の高校の先生方、発表生徒及び育友会役員の保護者の方々の観覧をいただき、第1部では文化創造館での英語によるプレゼンテーション発表と意見交換、第2部では第1部の発表を受けて新しい提案を考えるクラス別ディスカッション、第3部では文化創造館で日本語によるプレゼンテーション発表がおこなわれた。ここまで、今回の事業と関わりの深い3つの発表を中心に紹介してきたが、発表1(英語)では、少子高齢化が進みその荒廃が問題になっている里山のあり方につ

いて現状分析と提案をおこない、発表5（日本語）では、食品ロス削減の観点から、余った食材を利用して学校を使って子ども食堂を実施し、地域との関わりを生み出していこうという提案がなされた。なお、この提案については、現在のアドバンストコースの生徒の班がその研究を継承し、現在フィールドワークをおこなったり、中間発表をおこなったりしており、次年度の「未来創造会議」でその成果を発表する予定になっている。



<成果と課題とその改善策>

（外部からの参観者によるアンケートから）

- ・ いずれの発表も地元奈良を考える問題であり、高校生が少しでも向き合ってもらえば将来の奈良、そして日本の発展につながると思う。
- ・ 近年、急激に日本が観光国となってきている中で、今後展開されるであろう問題、奈良市だけでなく奈良県全体を考える問題であったと思う。県や自治体も考えているが、（彼らの提案は）一つのアイデアになったと思う [発表2]。
- ・ 実際にフィールドワークを行いその体験に基づいて発表されたのがよかったです [発表3]。
- ・ 取組が具体的で現実化できると思える発表内容でした。奈良の良さ、地域の良さを子どもの頃により知ることができれば、日本も変わっていくのではないかと感じました [発表3]。
- ・ 全員がしっかり説明しており、素晴らしいと思います。ただ、「読む」のではなく、プレゼン資料をフルに用いて、Audienceにもっとわからせるという姿勢がほしいと感じました。
- ・ 本やインターネット等で情報は簡単には取ることができますが、本当は自分の足で出向き、実際に見たり聞いたりした事を発表できるといいと良いですね（実際には時間が無いでしょうが）
- ・ 外国文学の研究を進める中で、改めて日本の郷土について興味をもたれたのは素晴らしいと思いました。奈良について描かれた文学作品を読んでみたいと興味を惹かれる内容でした。
- ・ 好きなことを自分の言葉で生き生きと話している姿を見て、聞く側も幸せな気持ちになりました。食品ロスについて高校生も感心をもっていてくれて嬉しいです。社会に出てからも問題意識をもって発信し続けて欲しいです。

本年度の発表は、現地へのフィールドワークやアンケート調査を踏まえて研究した班が増えたものの、時間的な制約の中で、一部は書籍調査やインターネット調査で終わってしまったものがあった。ただ、発表3のように今後の連携の第一歩となる取組をおこなった班が出てきたことは評価できる。一番の課題は、2年生全員で第2部でおこなったディスカッションで、クラスによっては積極的に意見が出ていたところもあったが、クラスによってはあまりうまく進行していないところも見られた。生徒たちとともに、教員がどのようにすればディスカッションできるように持っていけるのか、来年度から本格的に導入される「総合的な探究の時間」での課題研究の中で、教員の経験値を上げていく必要があるように思う。